

平成30年度 山口県立防府商工高等学校(全日制) 学校評価書 校長(小土井 実)

1 学校教育目標	
教育目標:豊かな校風を継承し、自ら学ぶ意欲と時代の変化に主体的に対応できる能力を備え、健康で社会や文化の発展に貢献できる産業人を育成する。 中期的目標:1 将来への道づくり:自己実現を支援する教育の推進 2 輝く人づくり:仕事を遂行するために必要な職業能力の基礎・基本の育成 3 開かれた学校づくりといきいき環境づくり:生徒、保護者、地域、教職員に開かれた教育の推進と安心・安全な教育環境の構築	
2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
1 生徒の進路実現に向けて組織的・協働的な取組を一層推進していくとともに、実社会から求められる人材の育成や大学入試制度改革への対応等に全校体制で取り組んでいく必要がある。 2 継続的な授業の工夫・改善を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の実現による確かな学力の育成と学習評価の工夫・改善に取り組んでいく必要がある。 3 学校運営協議会を設置するコミュニティ・スクールとして持続性のある地域連携教育を推進し、学校運営を計画的、効率的に進め質の高い教育と教職員の働き方改革を推進する必要がある。	
3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題(社会人基礎力の育成)	
1 地域とともにある学校づくりといきいき環境づくり ・コミュニティ・スクールの仕組みを活かした地域連携教育の推進 ・安心・安全に配慮した教育活動の実践と環境づくり 2 将来への道づくり ・一人ひとりに応じた組織的なキャリア教育の充実、就職・進学体制の整備 3 輝く人づくり ・「主体的・対話的で深い学び」の実現による確かな学力の育成 ・表現力・発信力を中心とした活用力の育成 ・「時を守り、場を清め、礼を正す」ことの出来る生徒の育成 ・相手の人格といのちの尊厳を大切にす心の醸成	
本年度のチャレンジ目標 Together as ONE ~ 自分たちの未来を切り拓こう ~ ○ 就職100%達成 ○ 進学第一希望100%達成 ○ 資格取得 ・商業:全商1級3種目以上合格 ・工業:ジュニアマイスターシルバー取得 ○ 読書年間12冊以上 ○ 自ら考え、判断し、行動する高校生	

4 自己評価		5 学校関係者評価					
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
地域連携	・コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、学校支援・地域貢献の双方で、学び合い・教え合いの活動に取り組む、持続可能な地域連携教育を推進	・事業所や行政機関での実習、外部講師を招聘した講演会の開催、地域住民を対象とした開放講座等を実施する。	4:学校の教育活動による地域活性化と生徒の学習意欲向上を評価する教員と保護者が70%以上であった。 3:学校の教育活動による地域活性化と生徒の学習意欲向上を評価する教員と保護者が50%以上であった。 2:学校の教育活動による地域活性化と生徒の学習意欲向上を評価する教員と保護者が50%未満であった。 1:学校の教育活動による地域活性化と生徒の学習意欲向上を評価する教員と保護者が30%以下であった。	4	教職員の97.6%、保護者の97.5%から肯定的な回答(「そう思う」「だいたいそう思う」)を得ており、当初目標に対して高い評価を受けている。コミュニティ・スクールとしての活動が2年目を迎え、学校運営協議会の仕組みを生かした地域貢献・学校支援の両面で、学校と地域が課題を共有しながら活発な教育活動を展開した。引き続き、本校の教育活動の柱の一つである地域連携教育の充実に向け、地域とともにある学校づくりを推進する。今後の課題としては、学科の枠を超えた教育活動の充実や、人材育成等が挙げられる。	高い評価を得ており、今後も活動の充実を期待する。地域とのつながりが定着、継続することが重要である。広報活動にも力を入れていただきたい。	A
CT	・希望進路の実現に向けた継続的な学習	・各自が目標を持って希望進路の実現に向けた課題に取り組むことができるように、様々な場面を設定する。	4:進路実現に向けて役立つ時間だと回答する生徒が90%以上であった。 3:進路実現に向けて役立つ時間だと回答する生徒が75%以上であった。 2:進路実現に向けて役立つ時間だと回答する生徒が50%以上であった。 1:進路実現に向けて役立つ時間だと回答する生徒が50%未満であった。	3	ほとんどの生徒が意欲的に取り組み、有意義な活動を行うことができた。学年が進むに従って、学校主導の行事や情報提供から、それぞれの進路実現に向けた各自の活動の時間を増やすことにより、生徒一人ひとりのニーズに応じた学習の機会を提供できた。生徒自らが課題を設定し、より自主的に取り組めるよう、どのように支援するかが今後の課題である。	生徒が主体的に取り組むことができるよう、今後とも支援体制、機会の充実を図ってほしい。	B
校務	・各学年行事の円滑な推進と情報共有。	・各学年行事において、各部署との連携強化と行事の円滑化に努め、そのための情報とノウハウの共有・継承を図る。	4:学校評価等で業務のスムーズな遂行と情報の共有ができていますと評価する教職員が90%以上であった。 3:学校評価等で業務のスムーズな遂行と情報の共有ができていますと評価する教職員が80%以上であった。 2:学校評価等で業務のスムーズな遂行と情報の共有ができていますと評価する教職員が70%以上であった。 1:学校評価等で業務のスムーズな遂行と情報の共有ができていますと評価する教職員が70%未満であった。	3	教職員の学校評価アンケートの「各分掌等の情報交換により、業務がスムーズに遂行されている」の項目で「そう思う」「だいたいそう思う」が全体の87.8%を占めた。行事前の各分掌担当者との打ち合わせ・運営委員会・職員会議等を通じて情報交換がなされた結果、各種行事が円滑に実施されていたように思う。しかしながら、「そう思わない」と回答した教職員もいたということは、情報交換・打ち合わせ等に課題を残した。特にベテラン教員と若手教員とのノウハウの伝承についての情報交換は口頭だけでなく、様々な方法で適宜伝えるように努める。また、お互いが情報的・確かな共有できる体制作りが今後の課題であるとともに、得た情報をしっかりと活用して充実した教育活動ができるよう組織的な学校運営に取り組む。	第三者を交えての世代間情報交換の場の設定や、情報共有ツール(LINEグループ)の活用についても検討していただきたい。	B
渉外	・保護者・外部団体・地域との連携の継承と発展	・同窓会、PTA、外部団体、地域との積み重ねられた連携を継承し、発展するように努める。	4:定期的もしくは事前の打ち合わせ、連絡調整等ができ、予定どおりの行事の実施が達成され、同窓会・PTA・外部団体・地域との連携をより発展させることができた。 3:事前の打ち合わせ、連絡調整等の準備ができ、予定どおり行事が実施と連携の発展ができた。 2:事前の打ち合わせ、連絡調整等がやや不十分で、行事の実施や連携の発展に課題が残った。 1:打ち合わせ、連絡調整等が不十分のため、問題点が発生し、行事が滞り、新たな課題が見つかった。	4	本年度は、PTAとして初めてスクールフェスタに参加していただき、「ため防焼き」の店舗は生徒達から好評を得た。天神まちかどフェスタでは、例年よりも早い時期の開催や、当日の雨天など厳しい環境の中、準備段階から多くの役員・保護者、地域の皆様のご協力を得ることができたため、盛会のうちに終わることができた。今後とも、行事実施後のアンケートや評議員会及び個人懇談等を通じて、コミュニケーションを十分取りながら、学校の教育活動全般において連携を一層深め、地域とともにある学校づくりに努めていきたい。	取組を高く評価できる。今後も学校運営協議会等を活用しながら、一層連携を深めていただきたい。	A
教務	・主体的な学習態度の育成	・検定試験への挑戦や学校行事への積極的な参加など目的を持った学習活動を通じ、主体的に学ぶ態度の育成と基礎学力の定着を図る。	4:授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの回答から、家庭学習習慣が十分定着したと見られた。 3:授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの回答から、家庭学習習慣がおおむね定着したと見られた。 2:授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの回答から、家庭学習習慣があまり定着したとは見られなかった。 1:授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの回答から、家庭学習習慣が全く定着したとは見られなかった。	3	授業アンケートの結果から見ると、約70%の生徒が当日の授業や実習に十分準備をして臨んでいる。課題等の提出についても、80%弱の生徒が期限までに提出できていると答えている。課題等の提出が不十分な生徒が50%程度おり、復習など授業の振り返りが不十分な生徒も約40%程度いる。商業科・工業科ともに検定試験等には意欲的であり、これらに関連付け目標をもった学習活動を通じて家庭学習の定着へとつなげていきたい。また、日々の課題については、きちんとする意識は強いので、与えられた課題だけでなく、生徒自らが主体的に学習に向かうよう、取組の工夫・改善に努める。	予習・復習の不十分な生徒に対して、指導の工夫・改善を図ってほしい。目標設定と手立てが重要である。	B
	・授業力の向上	・授業アンケート、公開授業や教員間の授業見学、研究授業等の研修を通して授業の質の向上に努める。	4:授業アンケート・学校評価アンケート等による評価において、マイナス評価が5%未満であった。 3:授業アンケート・学校評価アンケート等による評価において、マイナス評価が7%未満であった。 2:授業アンケート・学校評価アンケート等による評価において、マイナス評価が10%未満であった。 1:授業アンケート・学校評価アンケート等による評価において、マイナス評価が10%以上であった。	4	生徒に対する授業アンケートの結果では、「授業の狙いやポイント」「教員の授業に対する準備や工夫」「生徒の様子を見ながらの授業の進め方」「授業や実習がわかりやすくなるような工夫」「授業の進捗は適切である」など、すべての質問に対しマイナスの評価は5%未満であった。今後とも授業アンケートにおける生徒からの意見等を参考にしつつ、授業内容の更なる精選と授業の質の向上に努める必要がある。	生徒の実態を把握しながら、授業の質の向上に努めてほしい。相互の授業参観など、研修の充実により授業力の向上を図ってほしい。	A
図書	・読書習慣の定着と内容の充実。	・朝の読書の時間等を通して、読書習慣を定着させる。 ・「図書だより」の作成等、委員会活動を活性化し、図書館の利用促進を図る。	4:全校生徒の90%以上が、年間12冊以上読破することができた。 3:全校生徒の70%以上が、年間12冊以上読破することができた。 2:全校生徒の50%以上が、年間12冊以上読破することができた。 1:全校生徒の50%未満が、年間12冊以上読破することができなかった。	1	1月時点での目標達成率は20%強であった。朝読書の時間だけでなく月に約3時間の読書時間を確保できるはずであるが、月に1冊のペースは生徒にとって難しいようである。「図書だより」を毎月発行し、お薦め本や新着図書を紹介してきたが、図書室の本を借りたことがないという生徒が各学年とも半数以上いた。5冊以上読破している生徒は一定数以上いるので、さらなる生徒の読書欲を引き出すよう図書室の利用促進や学級文庫の充実にも努めたい。	生徒の読書活動を充実していくため、本を読むことの意味や効果を明示するなど、指導の工夫・改善を図りながら、粘り強く取り組んでほしい。	D
指導	・「いじめを許さない学校づくり」に努める。	・生活(いじめ)アンケートの実施や個人面談等を通じて、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解消に努める。	4:学校が認知したいじめについて、解消率が100%であった。 3:学校が認知したいじめについて、解消率が80%以上であった。 2:学校が認知したいじめについて、解消率が60%以上であった。 1:学校が認知したいじめについて、解消率が60%未満であった。	4	生活(いじめ)アンケートを見ると、小さなトラブルは本校でも少なからず起きている。スマホに関わる事案も見られる。情報モラルについて、適切な時期に繰り返し指導しながら、いじめも小さな芽のうちに対応できるよう、先生方のいじめの認知力の向上に努め、今後も学校全体で未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいく。	教職員のいじめに対する認知力の向上や生活アンケートの改善・充実、保護者とのきめ細かな連携など、いじめの早期発見・早期対応に向けた校内体制を確立してほしい。	A
	・「校則を守る」など生徒の規範意識の向上	・髪型服装検査等を通じて、防府商工高校の生徒として身だしなみを整えることへの意識を高める。	4:学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が80%以上であった。 3:学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が60%以上であった。 2:学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が40%以上であった。 1:学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が40%未満であった。	4	「校則や決まり事を守っている」という項目に対し、「そう思う」と答えた生徒が53.6%、「だいたいそう思う」と答えた生徒が41.6%となっており、あわせて95.2%という結果であった。ルール等を守りながら前向きに高校生活を送っている生徒像が読み取れる。髪型や服装については、特定の生徒にルール違反が集中するが、頑くなく指導するのではなく、学校の規定の必要性を粘り強く説きながら指導を続けたい。すべてにおいて「生徒指導とは限りなく説得である」という気持ちで、学校全体で対応していきたい。	生徒一人ひとりに規範意識を醸成し、社会の決まりを守り、社会的自立を進めていくことは大切である。様々な教育活動とおして、規範意識の向上を図ってほしい。	A
特活	・学校行事等の活性化	・学校行事(スクールフェスタ・スポーツフェスタ等)・各種委員会・部活動等において、主体的・創造的に取り組む態度を育て、活性化を図る。	4:学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が80%以上であった。 3:学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が70%以上であった。 2:学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が60%以上であった。 1:学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が60%未満であった。	4	「防府商工三大フェスタ(スクールフェスタ・天神まちかどフェスタ・スポーツフェスタ)等、学校行事が充実している」の項目に対し、「そう思う」と答えた生徒が60.1%、「だいたいそう思う」が33.3%となっており、あわせて93.4%という結果であった。昨年度より防府商工三大フェスタとして実施しているスクールフェスタ・スポーツフェスタを生徒たちが主体となって企画・立案し、保護者に公開して行った。生徒会を中心に準備から片づけまで行い、各種委員会や部活動が積極的に協力して運営した。多くの生徒が運営に関わり、「緑の下の力持ち」の裏方として協力してくれたため、自分たちが楽しめなかったのではないという心配とは反対に「そう思う」と答えた生徒が昨年度の約40%から今年度は約60%と1.5倍に増える結果となった。今後も生徒の意見をしっかりと聞き、生徒の主体性を大切にして、心に残る学校行事を運営していきたい。	アンケートの結果を見ると、生徒からの評価も高く、学校行事が充実していることがわかる。今後は、生徒の積極性や主体性を引き出す工夫とともに、行事を裏方として支えることにより、行事の活性化を図ってほしい。	A
安全	・交通安全意識の向上と交通事故の防止	・駐輪場指導を毎日実施する。 ・交通安全啓発活動に積極的に参加する。	4:交通事故の発生件数が10件未満であった。 3:交通事故の発生件数が15件未満であった。 2:交通事故の発生件数が20件未満であった。 1:交通事故の発生件数が20件以上であった。	4	生徒部に報告書が提出された交通事故は4件であった。いずれも大きな怪我には至らなかったが、一歩間違えば命の危険につながるものもあった。報告されていない軽微なものもあると思われるので、今後も交通安全指導には注力する。特に自転車利用のルールについては、交通委員や教員による朝の立寄り指導を更に充実させ、生徒の交通安全意識の高揚に努める。また、列車やバスの乗車マナーの向上も今後の課題である。	報告のあった事故については再発防止に万全を期すとともに、原因と対策等を全校生徒と共有するなど、指導の充実に取り組んでほしい。	A
保健(相談)	・健康で安全な生活環境の整備	・日々の掃除の徹底するとともに、幸せますまづくり運動や幸せ清掃隊等の活動を通じて環境整備に努める。	4:学校評価(生徒)において、環境美化に取り組んでいるが90%以上であった。 3:学校評価(生徒)において、環境美化に取り組んでいるが80%以上であった。 2:学校評価(生徒)において、環境美化に取り組んでいるが70%以上であった。 1:学校評価(生徒)において、環境美化に取り組んでいるが70%未満であった。	4	学年単位で行う「幸せますまづくり運動」に関しては、年3回計画通り実施した。清掃活動を通じて地域の様子を肌で感じ、地域のために一生涯命取りをこころで公共心や労働観等を養っていくと実感できた。幸せ清掃隊の活動は、毎月4のつく日に実施した。週休日や試験期間を除き9回の活動実績である。委員会活動としてだけでなく部活動や一般生徒からのボランティアを募り、多くの生徒が積極的に参加し学校全体の活動となるように、学校内外への情報発信を積極的に進めていきたい。	地域貢献という面からも継続して取り組んでほしい。市民の関心や評価が高まると生徒の励みにもつながるので、積極的な情報発信に努めてほしい。	A
	・健康の保持増進と体力の向上	・健康診断や身体測定、体力テストの結果をもとに自らの健康状態を理解させ、健康的に学校生活を送れるよう指導する。	4:身体測定、体力テストの結果が向上した生徒が90%以上であった。 3:身体測定、体力テストの結果が向上した生徒が80%以上であった。 2:身体測定、体力テストの結果が向上した生徒が70%以上であった。 1:身体測定、体力テストの結果が向上した生徒が70%未満であった。	4	体力テストの結果、男子は全体的に体力・運動能力が全国平均を下回っており、特に柔軟性、瞬発力、筋力、スピードの項目が低く、女子は1、3年生の筋持久力、敏捷性、全身持久力は全国平均よりやや上であるが、2年生は全ての項目において平均を下回っていた。年度推移は全体的に上昇傾向にあるので、今後も健康的な学校生活を送れるよう、これまでより毎日10分以上多く運動し、週2回は30分以上運動する習慣が身に付くよう指導していきたい。	体力テスト・健康診断の結果を年度推移で見ると上昇傾向にあり、指導の成果が表れている。引き続き、指導の充実に取り組んでほしい。	A

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
就職	・就職希望者が自分の望む職種に全員合格(就職内定100%)	・学年に応じた進路指導を実践し、勤労観・職業観を育成するとともに、適切な進路情報を提供する。 ・積極的な企業訪問を実施し求人確保を確保する。	4:就職希望者の100%が就職内定を得た。 3:就職希望者の90%以上が就職内定を得た。 2:就職希望者の80%以上が就職内定を得た。 1:就職希望者の80%未満が就職内定を得た。	4	本年度の求人数も昨年同様多く、売り市場の就職活動となった。進学や公務員から就職希望に切り換えた生徒もスムーズに就職活動が進み、民間企業への就職希望者123名について全員の就職内定が確定した。今後も様々な場面で生徒の職業観の育成に努め、就職に対する意識を向上させるとともに、積極的な求人確保に尽力したい。	地元へ就職する意識が高まるような取組を充実させてほしい。 自己実現することの大切さや難しさを理解して、社会に羽ばたいてほしい。	A
進学	・多様化する入試形態に対応した進学希望者の希望進路の実現	・生徒および多様化する進学先の、年々変更される情報収集を随時行い、個々の志望進路の実現に向けて、適切なサポート(アドバイスや対応策の研究・指示)を実施する。	4:進学希望者の90%以上が第一希望の進路先に合格した。 3:進学希望者の75%以上が第一希望の進路先に合格した。 2:進学希望者の60%以上が第一希望の進路先に合格した。 1:進学希望者の60%未満が第一希望の進路先に合格した。	4	本年度は国立大学進学希望者が多く、年度当初から小論文指導、推薦・AO入試対策指導を多数の教員が担当し継続した結果、第一志望進学先への合格率96%以上という成果を上げることができた。生徒一人ひとりの希望を叶えるために、個人指導、集団指導などの学習援助と並行して、個人面談、担任との連携、保護者への連絡などをきめ細かく行った。来年度以降も生徒の進路実現に向けて、指導の充実にも努めていきたい。	進学で県外に出ても、いずれは地元(山口県・防府市)に戻ってきたという郷土愛を、高校時代に育んでほしい。 生徒一人ひとりへのきめ細かな指導の成果であり、高く評価できる。	A
情報	・積極的な情報発信	・個人情報に配慮しながら、公式Webサイト等を利用し、学校の情報を適正に発信する。	4:公式サイト等の月間更新回数が5回以上であった。 3:公式サイト等の月間更新回数が3回以上であった。 2:公式サイト等の月間更新回数が1回以上であった。 1:公式サイト等の月間更新が無かった。	3	学校行事の状況や緊急連絡用として情報の更新を行った。昨年度立ち上げたSNS(Facebook)を活用して広報委員の生徒を中心に週1回のペースで学校の情報を素早く発信することができた。今後も生徒目線のSNSを通じた情報発信に力を入れていきたい。	認知度はまだ低いと思われる。他のツールも活用しながら、一層の周知に努めてほしい。 個人情報の管理は慎重に行っていたきたい。	B
専門	商業 ・ビジネスに関する知識・技能の確実な定着と主体的な学習態度の育成 工業 ・エンジニアとしての意識を高め、工業人としての知識・技能・人格を備えた人材の育成	・指導の工夫と改善を通じ、より上位級の検定試験に挑戦する雰囲気づくりを行う。 ・資格取得に積極的に取り組み、エンジニアとしての基礎知識と技能を身に付ける。機械科3学年全体で、マイスタポイント2500ポイントを目指す。昨年度は評価1であったが、熱意を持って取り組む。	4:3種目以上1級合格者の割合が卒業生の50%以上であった。 3:3種目以上1級合格者の割合が卒業生の40%以上であった。 2:3種目以上1級合格者の割合が卒業生の30%以上であった。 1:3種目以上1級合格者の割合が卒業生の30%未満であった。 エンジニアとして技能を習得し、資格取得に挑戦させる。 ジュニアマイスターポイント機械科生徒3学年238名で 4:2500ポイント以上 かつ 3年ジュニアマイスター50名以上 3:2200ポイント以上 かつ 3年ジュニアマイスター45名以上 2:1900ポイント以上 かつ 3年ジュニアマイスター40名以上 1:1900ポイント未満 かつ 3年ジュニアマイスター40名未満	4	今年度商業科・情報処理科3年生のうち3種目以上1級合格者の割合が59.1%(94人/159人)(2月4日現在)で、60%にわずかに届かなかったが、9種目(全種目)1級合格者を輩出することができた。資格取得に対する期待は強く、今後とも資格取得という明確な目標設定で、生徒の主体的学習を促しながら、指導・支援を続けていきたい。	積極的に資格取得へ挑戦することは、学習意欲を高める上で効果的である。結果だけでなく、学習過程も評価しながら、指導の充実にも努めてほしい。	B
業務改善	学校の組織等 ・適切な校務分掌と業務推進上のルールの確立	・分掌間及び分掌内の個人間で、校務処理の範囲、方法・流れ等を明確にする。	4:学校の課題や学校規模に応じて適切な校務分掌を組織しており、教職員一人ひとりの役割・責務が明確になっていると評価する教職員が80%以上であった。 3:学校の課題や学校規模に応じて適切な校務分掌を組織しており、教職員一人ひとりの役割・責務が明確になっていると評価する教職員が70%以上であった。 2:学校の課題や学校規模に応じて適切な校務分掌を組織しており、教職員一人ひとりの役割・責務が明確になっていると評価する教職員が60%以上であった。 1:学校の課題や学校規模に応じて適切な校務分掌を組織しており、教職員一人ひとりの役割・責務が明確になっていると評価する教職員が60%未満であった。	4	教職員を対象とした校務運営に関するアンケート結果では、「学校の課題や学校規模に応じて適切な校務分掌を組織しており、教職員一人ひとりの役割・責務が明確になっている」と肯定的に評価した割合が80.8%であった。 同アンケートの別項目で、「業務改善や業務削減が進んでいる」と肯定的に評価した割合は63.5%であった。一方、「業務は増えている」など、否定的に回答した教職員は全体の約12%を占め、一部の教職員への業務の集中を指摘する声もあった。 次年度に向けては、教職員が業務の改善や削減を実感できる実効性のある取組が必要であり、分掌ごとに業務改善をサイクル化するなど、全校体制で業務改善の取組を推進する。	アンケートで否定的な回答をした理由を把握し、できることから改善に努めてほしい。 組織的な対応により、業務の平準化を進めてほしい。	A
	日常的な業務 ・会議時間の短縮	・運営委員会や職員会議での議題について、協議を要する内容と連絡事項に分けるとともに、時間配分を明示することで、会議の効率化を図る。	4:勤務時間内に全ての会議が終了した。 3:勤務時間内の会議終了が80%以上であった。 2:勤務時間内での会議終了が60%以上であった。 1:勤務時間内での会議終了が60%未満であった。	1	定例の職員会議において、昨年度に比べ勤務時間を超過して終了する会議の回数が増加した。会議時間を短縮するため、報告・連絡については職員朝礼時に行うことや、次年度整備される統合型校務支援システム(校内LAN)の利活用等に取り組む。	課題を踏まえ、会議時間の短縮に向けて、取組の改善・充実を図ってほしい。	D
	勤務状況 ・教職員の健康の保持とワークライフバランスの推進	・学校閉庁日や部活動の休業日の設定及び年休・代休・職専免等・パランスの良い組み合わせを奨励し、時間外業務の平均時数について、前年比10%の削減する。	4:時間外業務の年間平均時数が前年度比10%以上削減された。 3:勤務時間内の会議終了が80%以上削減された。 2:時間外業務の年間平均時数が前年度比6%以上削減された。 1:時間外業務の年間平均時数が前年度比6%未満の削減であった。	1	時間外業務時間の平成30年12月末現在の平均時数は、前年度比4.4%増という結果であった。増加した要因としては、全国産業教育フェア山口大会の引き受けにより、9月、10月の時間外業務時間が前年度に比べ増加したことなどがある。 引き続き教職員のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、業務の削減や効率化を全校体制で推進するとともに、研修等を通じて教員のタイムマネジメントに対する意識の向上にも努める。	教職員の働き方改革が強く求められている中、取り組みのスピードアップが必要である。 業務の遂行にあたっては、合理性に欠けることがないよう留意してほしい。 心を疲弊させないことや、やる気を低下させないことが大切である。	D

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【未来デザイン部】地域連携活動については、地域貢献と学校支援の両面で関係者間で情報を共有しながら積極的な取り組みを行うことができた。CTについては多くの生徒が各自の目標を明確にしなが取り組むことができた。
【総務部】各種行事の実施にあたり、各部署と情報交換を密にして情報を共有することにより連携を図ることができた。PTAや地域との連携は十分できており、今後さらなるコミュニケーションの深化と連携強化に努めたい。
【教務部】授業アンケートの結果と授業内容に対する評価や授業に対する取り組み、課題提出に対する意識は高い。予習・復習等、自主的な取り組みに関して、まだ半数近くが不十分と判断しており、目的意識を高めるため、より工夫が求められる。
【生徒部】小さな芽のうちに対応できたいじめやいじめもあつたが、すべての事案に完璧に対応できたとは言いがたい。いじめアンケートだけを全面的に頼ることなく、教員それぞれの「いじめやいじめに対する態度」をさらに上げていくことが必須である。また、生徒の情報モラル向上のための教育を、今後も繰り返し実施していく必要がある。
【健康部】環境教育については、「幸せますまづくり運動」を実施した。清掃活動を通じて地域の様子を肌で感じ、地域のために一生懸命に取り組むことで公共心や勤労観を養うことができた。体力については、年度推移で上昇傾向にあるが、全国平均と比較すると多くの種目が低い傾向にあるので、運動に主体的に取り組む習慣が身に付くよう努めたい。
【進路部】就職については、積極的な企業訪問による求人確保や学校をあげての就職希望者への指導が身を結び、就職希望者全員の就職内定を得ることができた。(就職内定率100%)133名の就職者の内、県内就職者122名で地元社会へ貢献できる人材の育成を達成することができた。(県内就職率91.7%)
進学については、専門高校の特徴を活かしたカリキュラムのもと、様々な課外や講義、個別指導の充実を図り、個別の受験指導が成果をあげ96%の生徒が第一志望の学校に進学することができた。国公立大学合格者21名は過去最高の実績となった。
【情報部】広報委員主体の本校Facebookを立ち上げて2年目となり、週1回のペースで生徒目線の情報発信ができた。しかしながら、知名度が低いという課題がある。分掌業務については各担当で負担軽減のための対応ができた。
【商業】生徒の資格取得への意欲の高さと教員の環境作り、指導・支援の成果として、今年度も多くの生徒が全商検定1級を取得できた。6年ぶりに全種目(9種目)1級合格者も出た。ただ、合格するだけの学習にならないようにするために指導の充実を図ってきたい。
【工業】実習や座学をとおして、専門的な知識を身に付ける事はできている。また、資格取得の意識は高く受検者の数は例年と同程度であるが、合格率が上がってきていないのが現状である。合格に向けての指導方法の検討と合格への意識付けの課題が残った。
【業務改善】重点目標として掲げている3項目のうち二つがD評価となり、業務改善の進捗率は低い状況である。教職員が業務の改善や削減を実感できる実効性のある取組の推進、業務削減が先行することで教育の質が下がらないようにすることが課題である。

7 次年度への改善策

【未来デザイン部】地域連携活動については、学科間の連携を更に推進していく。また、CTについては、生徒の自主的な活動を支援する体制を整えていく。
【総務部】各部署との連携と早めの計画立案を行い、それに基づいた円滑な運営に努め、実施後の意見交換等を通じて、業務改善を推進する。また、担当者が交代しても業務が滞ることがないように組織的運営と継続性の確保に努めたい。
【教務部】検定週間などを利用し、専門科目に対する興味・関心を高めるとともに、一般常識・教養を高めるため、各教科が連携し、生徒の学習意欲を高めていくことを考える。
【生徒部】情報モラル教育は長期休業中前や家庭学習前など、節目節目に実施する。生徒会などの特別活動は、生徒の主体性を育むものにしてほしい。
【健康部】環境教育については、一部の生徒の活動にならないように、多くの生徒が積極的に参加し学校全体の活動となるよう、積極的な情報発信を行う。健康の保持増進と体力の向上については、健康診断や体力テストの結果を踏まえ、自らの健康状態を把握し、主体的に運動に取り組むことが、健康の保持増進につながることを理解させたい。
【進路部】今年度については、就職、進学共に予想以上に好結果を残すことができた。来年度に向けて、PDCAサイクルを活用し、より一層の進路指導の充実を図りたい。
【情報部】本校Facebookの知名度を上げ、生徒目線のタイムリーな情報発信に努める。新たにInstagramの利用についても検討を進める。分掌業務については、負担軽減のために、さらに業務内容の精選と見直しを進める。
【商業】資格取得意欲の向上を図るとともに、検定合格だけでなく、「学習内容を理解し身に付けること」や「主体的に取り組むこと」への重要性について指導する。
【工業】専門科目の興味関心を高めながら、自ら学ぼうという意識付けに力を注ぐ必要がある。資格取得において合格率が上がらない原因として、補習以外の時間に自ら学習していない現状がある。自己指導能力を育てたい。
【業務改善】業務改善を確実に進めて行くためには、一人ひとりが当事者意識をもつことが重要である。分掌ごとに業務改善をサイクル化して、学校全体で取組を推進する。また、「業務改善と教育の質の保証」が相反することがないよう、質の高い持続可能な教育活動を展開するため、コミュニケーションの仕組みを生かした地域との連携強化・外部人材の活用にも積極的に取り組む。